

大東文化大学 博士学位論文審査報告書

氏 名 HUR IWA

学位の種類 博士 (アジア地域研究)

学位記番号 甲第177号

学位授与年月日 2023年3月23日

審査研究科 アジア地域研究科

論文題目 中国・内モンゴルにおける乳製品の消費動向分析
—シリングル盟チャハル地域正藍旗の事例を中心として—

論文審査委員 (主査) 大東文化大学教授 井上 貴子
(副査) 大東文化大学教授 須田 敏彦
(副査) 大東文化大学教授 岡本 信広
(副査) 大東文化大学名誉教授 篠田 隆

令和4年度博士學位論文審査報告書

学位申請者：HURIWA

大学院アジア地域研究科アジア地域研究専攻博士課程後期課程3年次在籍

学籍番号：19251101

申請学位：課程博士 博士(アジア地域研究)

論文題目：中国・内モンゴルにおける乳製品の消費動向分析

—シリングル盟チャハル地域正藍旗の事例を中心として—

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされております。ご了承ください。

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされております。ご了承ください。

4. 論文概要

本論文は、中国の乳製品の主要産地となっている内モンゴル自治区シリングル盟チャハル地域正藍旗をフィールドとして、乳製品の製造販売の実態を明らかにすると共に、乳製品消費者の購入利用の状況や製品の安全性に対する認識と、民族、年齢、性別、職業といった消費者の属性との関係について調査分析することによって、乳製品の消費構造と消費者意識の変化について検討し、製造販売業者と消費者の間に存在する問題を明らかにすることを目的としている。

第1章は「内モンゴルにおける乳製品に関する先行研究」と題し、先行研究の方向性を五つの傾向に分類して紹介している。先行研究は、メラミン事件とその影響に焦点をあてた安全問題に関する研究、酪農政策と乳製品の生産流通に関する研究、生態移民と酪農活動に関する研究、乳加工技術の変化と発展に関する研究、乳製品の消費動向に関する研究に分けられる。

第2章は「乳製品と乳業の概要」と題し、モンゴル民族による乳製品の加工技術や製造販売されている乳製品の種類について説明し、乳製品の市場拡大に伴い、伝統的な製造方法から現代的な機械化された製造方法への変化の状況が具体的に明らかにされている。また、『中国乳業年鑑』等の政府刊行物や先行研究のデータに基づいて、中国全体と内モン

ゴル自治区の乳業の発展と乳製品の消費動向に関する概要が示されている。

第3章は「乳製品の製造販売業者」と題し、シリングル盟正藍旗の乳製品製造販売業者に対するアンケートと聞き取り調査に基づき、製造販売の実態が明らかにされている。工場では生産ラインが機械化され、現代的な乳製品を主に製造販売するが、専門店が家族経営で伝統的な方法が維持され、乳製品が手作りされている。また近年、漢民族による消費が拡大し、それに伴って牛乳不足が起こっていると指摘されている。

第4章は「乳製品の購入調査分析」と題し、主に乳製品の購入頻度、購入量、購入場所を、民族（モンゴル族、漢民族、その他）、年齢、性別、職業から分析している。その結果、モンゴル民族は毎日、少量を乳製品専門店や酪農家から購入する傾向があり、漢民族はスーパーマーケットや一般の商店でまとめ買いする傾向があることが明らかにされている。全体として乳製品を食べる習慣がなかった漢民族の乳製品購入が増加している。

第5章は「乳製品の利用調査分析」と題し、乳製品、牛乳、ヨーグルトの利用頻度や増減を、民族、年齢、性別、職業から分析している。その結果、乳製品を日常的に摂取する習慣のあるモンゴル民族ばかりでなく、漢民族にも乳製品が浸透、専門店をも営むようになったことが明らかにされた。特に近年、若年層の間で乳製品の摂取が高まり、牛乳とヨーグルトの利用が大幅に増加している。

第6章は「乳製品に関する安全、認識、感覚についての調査分析」と題し、乳製品の安全性や価格上昇に対する消費者意識について、民族、性別、年齢、職業から分析している。その結果、漢民族はメラミン事件をよく記憶しており、モンゴル族よりも安全性に対する意識が高いことが明らかになった。一方、乳製品の価格上昇は常態化しつつあるが、消費者の多くはこれを容認する傾向にある。

結論として、モンゴル族は従来から遊牧生活を営み、乳製品は重要な食物として利用され、その傾向は今日まで維持されている。一方、乳製品を摂取する習慣のなかった漢民族にも乳製品が浸透し、それに伴って双方の食生活に変化が生じている。特に市場拡大に伴い、乳製品に対する安全志向は高まっており、中央および地方政府は、乳製品の製造販売業者に対して成分表示を義務付けるなどの法的措置を伴う行政指導を徹底し、消費者の信頼を取り戻すことが望まれるとして、論を締めくくっている。

5. 審査講評

(1) 本論文の成果

本論文は以下の点において優れており、中国・内モンゴルの乳製品産業の研究に大きな貢献をなすものと考えられる。具体的には以下の点が重要である。

第一に、内モンゴルの伝統的な乳製品の製造販売過程についての詳細なフィールド調査によって集められた資料は非常に貴重である。特に、多様な伝統的乳製品とそれらの製造工程に関して、近代的な工場での製造工程と比較しつつ、多数の写真資料と共に実態を明らかにしたことは、本論文の最も重要な成果だと言える。

第二に、調査地のシリングル盟正藍旗は内モンゴル自治区内でも特に北京に近く、急速に漢民族の人口が増加し、今日では人口の 6 割を占めるなど変化の激しい地域でもあるが、その一方で、元上都遺跡の存在が示すように伝統的なモンゴル文化の継承意識も高い。こうした地域における乳製品をめぐる「伝統」と「変容」のせめぎあいについて、乳製品製造販売業者と消費者の双方に着目し、アンケート調査に基づいて分析している点で独自性が高いと言える。

第三に、内モンゴル自治区の酪農や乳製品産業に関する研究は多いが、本論文は、消費者意識に着目してモンゴル族と漢民族とを比較し、漢民族による乳製品の使用が日常化していることを明らかにした点が重要だと言える。

(2) 本論文に残された課題

本論文の主要な論点は、第一に、従来はモンゴル族内部で行われていた伝統的な乳製品製造販売のありかたが、漢民族による乳業への参入や消費者の増加に伴って大きく変化していること、第二に、乳製品の市場拡大に伴って消費者意識が高まり、特にメラミン事件を契機として安全性に対する関心が喚起されたことである。これらの点についての本論文の分析には一定の説得力があるが、以下のような問題点や課題も指摘された。

第一に、内モンゴルへの漢民族の流入によって、モンゴル族の習慣の影響を受けて漢民族の食生活が変化し、乳製品の摂取が増加したとされているが、従来の漢民族の食生活について明確に記されておらず、乳製品の消費量増加以外には根拠となる資料が乏しい。したがって、それがモンゴル族による影響かどうか断定できない。

第二に、中国乳業年鑑が 2016 年までのデータにとどまっている。新型コロナ禍の影響や中国の政治的变化に伴い、インターネット上での資料閲覧が困難になった点は理解できるが、日本国内に所蔵されている資料を渉猟する努力が必要である。

第三に、アンケート調査の回答者 607 名中の約 4 分の 3 がモンゴル族であり、漢民族のサンプル数が少ない。調査地では漢民族人口がモンゴル族を上回っており、少ないサンプルで漢民族の回答を代表することには問題がある。

第四に、メラミン事件が発生した社会的背景やその影響についての記述が不足している。漢民族にはインターネットが普及していたためメラミン事件の情報を得やすかったこと、モンゴル族はモンゴル族の乳製品専門店から購入するため、事件に直接かわらなかったことが指摘されたが、消費者の安全性に対する意識の高まりは本論文の重要な主張であるため、根拠資料を提示して、さらに詳細に論じるべきであった。

第五に、牛乳不足がしばしば指摘されているが、この指摘の原因や根拠となるデータが示されていない。これは乳製品製造販売業者が最も重要な問題点として指摘している点であり、具体的なデータを示して裏付けるべきであった。

以上、博士学位請求論文に対しては審査委員から多面的な講評が提出された。当該論文にはまだ克服すべき課題が多く残されている。特にフィールドワークで収集された多くの

資料の分析と理論化についての課題は多い。モンゴル族による伝統的乳製品製造販売の維持発展に対する執筆者のこだわりは十分に伝わるが、それについては、六次産業化の現状と可能性を探るといった点にも取り組んでほしかった。しかしながら、提示された資料は申請者による地道なフィールドワークの蓄積の成果であり、従来の内モンゴルの乳業研究に対して一定の貢献をなすものである。収集された資料の重要性に加え、着眼点の独自性、論旨の一貫性において、博士の学位論文として十分な水準に達していると判断できる。

6. 審査結論

審査委員会全員一致で、HURIWA の博士学位請求論文が、博士の学位にふさわしいものとの結論に達した。